





狐立齋

李周翰之直上狐立  
曰峯

文化甲戌夏

隨齋  
峯



きふれいふふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら  
かたふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら  
あふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら  
はらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら  
詩集ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら  
芭蕉の翁の歌ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら  
かみふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら

序一

呼ふふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら  
狐ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら  
ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら  
たふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら  
うふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら  
ねふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら  
ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら



あまのついでにうたはれ給ふ人のこゝろを  
あはれおぼしめされ給ふは建御名方尊  
の御心遣ひにあらざらんや  
あまのついでにうたはれ給ふ人のこゝろを  
あはれおぼしめされ給ふは建御名方尊  
の御心遣ひにあらざらんや  
あまのついでにうたはれ給ふ人のこゝろを  
あはれおぼしめされ給ふは建御名方尊  
の御心遣ひにあらざらんや

天保六年六月

序二

更衣 皇代記

あまのついでにうたはれ給ふ人のこゝろを  
あはれおぼしめされ給ふは建御名方尊  
の御心遣ひにあらざらんや  
あまのついでにうたはれ給ふ人のこゝろを  
あはれおぼしめされ給ふは建御名方尊  
の御心遣ひにあらざらんや  
あまのついでにうたはれ給ふ人のこゝろを  
あはれおぼしめされ給ふは建御名方尊  
の御心遣ひにあらざらんや  
あまのついでにうたはれ給ふ人のこゝろを  
あはれおぼしめされ給ふは建御名方尊  
の御心遣ひにあらざらんや







従法をくらき夜しふるまき  
 る半半ふ口ふふ家うけり  
 紫れ美れちやひんきふ動きをぬ  
 けの草とりりのこらるるさの月  
 ちやうこ結をさふ守れり此  
 いはまていふまきり子れるまき  
 小結ぬく花の林檎乃らふ紫ゆい  
 階子にねまき守こきりの糞  
 美 峰 滅 美 峰 滅 美

二

炎すえぬ目をさきこみをうら  
 女ありあふくらき 抛灯 季  
 りるまに滑りまぬる寺れり 車  
 らぬまふかとりふ茨りちあふ 峰  
 夜ふくまぬこら雷れまきまき 滅  
 籠のあてにちと桶の烏絨 英  
 弓とりを伊賀よ捨りし守り 左  
 をしむ拍のわはまき 水み侍 西



きりしと吹草糸はを振拂て  
 蕨をたけとの菫あけりうぬ  
 そとれ歌よみ換て藤むは月に  
 西風ころりこす川原への歌  
 春むらぬ城の北山いぬりく  
 今作のむらぬ逢てりうぬ  
 針のきき部み歌をきりて  
 波のうねゆきとさう天氣あや  
 英 藏 岬 西 乃 英 藏 峰

三

おて来し花み心れと万歌新  
 春お市のこゑの自れ満ちて  
 英 藏

青簾

春すしと暁をくらあはれやあ  
 青きうぬれをげとまき花をりか  
 月后 名村

灌佛 文入

灌仏や春も一編笑をぬ  
 瀬江



花子堂人の言くしこふ連ぬ 平座  
二三行 萱もこの花言ふ入が 一瓢  
なみ入るといふおまをなれの子 心非

初観 麦林

物言ふれや言ふらるる神松魚 三津人  
魚のつらと眠し観るゆゑに 洞  
松魚の言はれぬの言くん山 峰丸  
まらげて来し歌をきたはつ観 宇橋

麦の林葉は木の骨と似りあやわ 白鳳  
裸身入集るるらや麦の林 李外

牡丹 牡丹

さく牡丹らみふらりぬ自心いふ如 草丸  
折し出しこえぬぬかぬんれ盛が 壺半  
ぬきりつぬて牡丹咲日の袖さるし 似藻  
身言ふをまのしとふしん咲みさや 魚洌  
花をうらむしこ二日めの牡丹らわ 如髪



あまのしよちのこらふをばなむ社丹の 芦人

古はるそとありしをばなむ社丹の 草鳥

まのたより故の生まじけり社丹の 才馬

山陰やい長きつらむかた社丹の 素玩

なみれる世のふたむらふ社丹の 呂律

そよまげぬれうまをばなむ社丹の 箕香

夕の暮やまげのおろそま社丹の 月叢

ありしけのなれうまをばなむ社丹の 處白

江の尻やまふたきれ言りたはらぬ 鷗里

芥子 外記 葵

げにれきふりたはらぬはなむらぬ 杜英

あゝのそらふらしむ合をて咲うたむ 東

そはれ花をばなむらぬあゝぬ 羅風

芥子ちやぬきもの心みらぬ 曙堂

清くもぬく夜をばなむらぬ 顧山

林をばなむらぬあゝぬ 茶嘴



う花苑ふ似く花片くまうまにねり 椿堂  
弁花にまをたまて咲や茨花もか 漫こ  
あつてぬく夜のうの花澄りうや 与人  
う花苑ふ林七くら根志ありぬ 一葉  
咲くまうく見ぬや 葵もゆら花に 松長

餘花 葉梅

條ををまきん古菓の蜂に夢いりる 石鼎  
まふ作らうやとくく炭火のちち急ぬ 菖朱

あふふ

燕倉のこころのれわふ葉系那 車函  
笛吹てうら坂下ぬらうまふこふ 浦人  
すくく目のこころわむぬまふあふ 燕市  
尾毛まけあふこりの花行しあふる 里丸  
わの窓のまきうあふの物あふら 音蛙  
ゆみほのうけ引よまらわりのな 周恭  
あやしとあふまきあふらはかぬ 且心



相の花 柿の葉

よき人のあはれに長くや相の花 乾夫  
を想こしよらぬや五月にきりの花 中保光  
折れ木や花をそよりわたる日の長き寺 連志

郭公

かき子田ことふきれうほの夜う 衰丁  
山をみまけしる空に花をさす 寒松  
えらけぬかや廣くの帝魂 草齋

波の花おちりみふし 一ととま子 幽谷  
人ともたにさすりさすりやう時を 平角  
物ともあしこくぬきまをぬく 杜宇 梅回  
胃魂は弁たるはしよみか夜歎 百非  
玉宇のけくやうかまのほくし 清丸女  
月れ海のおうしよまは子親 菊叟  
初のをかきふとれたし 在鬼 金菜  
逐しある言さうつれや 望帝 馬羊



子守のふりそとぬりりりりり  
潮花

旅魂をゆくゆりて日ぬりか  
魏道

杜鰐のりりりりりりりりり  
鞆風

にほひききききききききき  
瀬古

帝取山根のゆりゆりりりり  
儂子

まきまきや空のりりりりりりり  
存<sup>古人</sup>亞

三態おのりりりりりりりりり  
三流をたれ

麓をぬりりりりりりりりり  
帯のぬりりりりり

あわおおお川とよあこまうりりりり  
あわおおお

二里あわりのみれからりりりりり  
こころりりり

ぬりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりり

きりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりり

きりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりり















竹うゑて木回あゝるや浦北やる 李峰  
 朝来夕魚のせしる涼しき 蕉白  
 ひれ巻の鞘ふまゝなるるけり 峰  
 英ゆきこれすまのふ田にあはれ 有  
 静とちねらそきしき月の林 峰  
 昆布よきに拵く家たうゆえ 有  
 物居を考ふるちりあゝのあらしと 峰

ちりあゝのあらしと 有  
 華の減るやうもあゝけぬ峰の臺 峰  
 いふは鞆の寺みこらにけく 有  
 木こししれ吹さる膝をゆすねを 峰  
 ゆい女曰五人かねれ飯とま 有  
 舟の月たゑの心をあつちやう 峰  
 林をさるちあはれ 有  
 ちかきとちあゝるちあゝる 有



倅吹のやぶを肩より一の家  
もは花をたけ并に船の波うら  
堂の物とたじまのふれぬ  
實方の墓うら墓の出てあり  
繕をゆめぬ日々あつゝある  
れ并穴を埋む柱のそりうら  
お花は母の菴の水ふらうら  
夢の目も鳥れ口もつゝ海邊に  
る 峰 有 峰 有 峰 有 峰 有

三

ふも並にふもつゝ一巾着  
かぬの関れ夢の聲の目尻  
水らぬものた松まうあやけり  
かへ佛めをとて人の簾と笠  
そよみまはつゝの牛尻もつゝ  
孤鶴もえ 甚る月をむすゝ後  
うらへれ花ふ肌ををへる  
きりしす夢吹のたふあつゝ  
る 峰 有 峰 有 峰 有 峰 有



草鞋流して海乃きやうき  
 ぬこりれ西よれちり猿田彦  
 藪を自在に渡れつらんら  
 ほちれまむのちけ皆さくらま  
 白も然らさぬまらぬの夜  
 峰 百 峰 百 峰

蓮 萍

朝角れ中れうまらり蓮の家  
 与 例

十四

あまのこゝろ心名とぬれ蓮のちか 万 籟  
 めの星のあつちかやほまの露 菊 塙  
 月人を待申懐外りちかめ花 多 代 女  
 蓮れ咲え花子を酔ひぬまらぶ 月 三  
 五、六尺月名とぬれ蓮のちか 岩 衛  
 舟を片や萍おれくこちより 雄 関  
 萍にうたもや孫宣り供もん里 秋 學

昔の花 百合 紫陽花



丈夫の藤酒こがまてききのけり  
閑齋  
山陰やあまうらやゆりのとれ  
一宵  
月おろしきやうきく幾く百念の花  
仙骨  
紫陽花のほふよこしきくまのり  
詠帰

橋 推粟

橋は葦のや紙急め近めく  
史千  
月夜ぬけぬ橋のこけり  
相栖

五

そらとたやる夜は月のけり  
碓嶺  
推の花も心不ぬるる急めく  
相雨  
さうわがと淋しい花もさう粟はさ  
北岳

な木立 合歡 三行

あき白のとらしとけり木立  
葵亭  
人のまぬ流ともわたりと  
一朝  
まはりのなをさの母や合歡は花  
春樹  
あけを藤のまをさの母や  
素律



あふげに煙のとくも湯ふねの如く 一雨  
わたりぬ月れ小池をうらうらとあり 臨池

瓜の花 交菊 秋のこ

木はもたらり木はもたらりて瓜はを 奇詞  
この里よよも老より瓜はより 玉屑  
交菊をすめりしは常より 茶静  
母子れははくもよもよもやよりぬ 新翠

早苗取 田植 青田

ふはるとをぬいしはま苗より 南窓  
あふりし雲ふも雲より田植より 秋月  
昔より驚きより 田う急時 大行  
瓜はしと月を植ふ心あり田より 雪華  
いほのちた植ふ所の田や山の月 雨塘  
昔回かく地をそのち月より 双湖  
山を平しよるはく波ゆり出す昔園より 李尺

蚊 蚊帳 蜂



改れ何のいれらふか

古

菊女

目小並げと改れ淋しきものよきまきり

林耳

久改のきりー語まの改のふかー

廣陵

骨の改のふかーゆきまきり

佳山女

改老のふかーゆきまきり

杜墓

骨の改をすきまきり

季白

いれ改れゆきまきり

義香

改やり火や横ふまきり

五種

十七

人の年尺をまきり

篤老

亦れ改のふかーゆきまきり

孔祭

改いゆの横一井一

松宇

改のふかーゆきまきり

星譜

改のふかーゆきまきり

改里

改のふかーゆきまきり

不老

改のふかーゆきまきり

沙路

改のふかーゆきまきり

未紹



坂を登りてゆくはゆめや天竺川 東浦  
いまだぬをさるるは破らぬ蜂のこゑ 下園

堂 蠅 編 蝠

さうらうと海を渡る一飛ぶる 隨和  
堂こよしとをさるや川系萩 松江  
吹雪一修や葛をのふ藤の堂 雪雄  
人さあはたらけや学ふゆくをさる 卓池  
きほろくこれ堂のたを 茨あく 下木

堂中かこひてさるる一夏のたをさるる 起后  
入目や海を渡るはたか多ふ 吳江  
花堂ふれり尺蒲のあかたの如 里秀  
柳あつとをさるる花をさるるが 茂推  
あつとをさるる花をさるるが 緩督  
うめりり一夜のさるる花をさるる 可布  
花をさるる花をさるる花をさるる 李青  
百の蠅追つて淋しう近まらり 五若



輪端のはねより建ちた二日月 万里

あ鱈 鱈 浮巢

そればやみそいれらる川に魚の尾 南井

空をまよふ三日のまてぬくあ鱈 恭家

大沼のふかき松もまきくあたり 釣翁

ふうはりしてあ鱈鳴る三ふらふ 白籟

ととわらぬ田中のゆや鳴るといふ 冠之

鱈のたらたのをたといとけり流の波 布席

十九

いとたをいばやいとくき鱈舟の 千崖

浮巢もろくろあうますふとくえうな 哥子

鹿子

旅十まのふのふれこもえうりあや 素英

あ〜ともれ〜く花やせ、麻子のあ 夢街

五月雨 入梅 虎ある

とみか〜あや新のむさ〜定めぬま 鳥頂

五月雨の海へ〜るん昆布の塩 羨南



五月の雨の聲はよきものなり武陵

五月の雨の聲はよきものなり一蕙

五月の雨の聲はよきものなり淋山

五月の雨の聲はよきものなり梅史

五月の雨の聲はよきものなり小笠

五月の雨の聲はよきものなり黄貫

五月の雨の聲はよきものなり器水

五月の雨の聲はよきものなり李堂

二十

歌志ら歌

五月の雨の聲はよきものなり湖中

五月の雨の聲はよきものなり捨柿

五月の雨の聲はよきものなり猿啄

短夜 夏の夜 五月

五月の雨の聲はよきものなり魯院

五月の雨の聲はよきものなり于當

五月の雨の聲はよきものなり馬良



短よや楯の小きしよさくしのはく 石羊  
みりよさくしよらつて集りていつか 多人  
うらな夜れきよよまのほるれたり 不轉  
美しからんを集りて集りての雀りな 路一  
四や十の夜やらりしと昔甚 大明  
なみのよの十日よしと夜あのにぬ <sup>お</sup>聖丸  
おのれよやよさくしよの十よの萩の春 吳老  
おのれよよ集りて集りてのれ日 崔老

三

人よのしよさくしよのやなれ月 碩齋  
まはの月夜の美中にのころきを 武日  
なれ月子を呼小ゆく楯のうし 稻志  
傘よれきく通るやおはの月 竹妓  
腹子きく魚を拵よやなれ月 長齋  
松糸のそよしよやうれりの友の身 三顧

惟子 抵園云 虫予

おれよなまおるしよのらよさくしよ 應こ







ゆゑのこゝろや一日推さるゝ  
と光

雪止峰

うさぎの柳をふくむ峰  
紀徳

ふれぬ皆京入のうす子履  
魚石

雪の峰 ころもぬく夜ふ入ぬ  
孝山

舟多しと雑やあつたものみね  
聖洞

うさぎ向く帆のゆくとおぼしめす  
一之

ふれぬをばあつたものみね  
百朋

舟 毛虫

蓬生ふ草をいりりとのみね  
苑叔

舟の舟れなとあつたや草をいり  
魚眼

松竹や葉甲のうすを這ふ毛虫  
可良久

園庭 簾 竹垣

そのふれぬ限りゆめ園庭なる  
李朝

舟をぬくをいりぬく 流るる  
古綱

舟をぬくをいりぬく 流るる  
仙李



あやめれし庭よ咲きし竹梅人 子歌

網涼 清水

涼—とをたてて静くは夜れを 井眉  
 初の日涼きららのとゆゑ 可那 省吾  
 雀らら子音すたてし門もく見 久路  
 す—とものもくもあつや後れ人 治橋  
 涼—と尺笛もやあしし何—の目 由美  
 ま—とあや東の松もさくらんり 蕉翁

涼—と花より花をわたり小盆 國村  
 花のうまゆりて涼やほくも子 勝雛  
 雪のうらみの出てゆへす—と 仙舟  
 す—とあや織の小松れつとまのり 季仙  
 涼—と花をたれ小盆もあはれあわ 紫君  
 ま—とあやいのちを投出すこふ建松 聖丸  
 お—とあやあつたてのまのりあつたて きよ女  
 昔はあつたてをたてて我の志は 月底



日れにけや清きよのねむり夢のしら  
ねんころみ汲人花より苔清きあ  
我家の清水おう居る物もまじく  
新山  
名郷  
練圃

心太 川物 麻苧

とこそん松母ことこの急かつ手ぬ  
後村の急を来りたりとこそん  
川物の急を来りたりとこそん  
麻苧にこそこの急や 花の情  
一須  
峰貴  
五波  
任丸

三五

夕魚 夕舟 夕世

ゆふかりや一日あふ目くらま  
夕歌や 岸もものぬ 湖のあ  
暮らたりや立よのわらふ子れ中  
あふ息やよの急きよの利根のみ  
世の急きよの急きよの急きよ  
なまの申こまの急きよの家うね  
梅價  
名貴  
蒼城  
甫天花  
素吟  
千羽女

晩夏







花  
入  
以  
規  
長  
子  
子





文政六歲癸未六月

櫻香 五味木子峰

ひとりのち

李峰撰 文政六年

7



